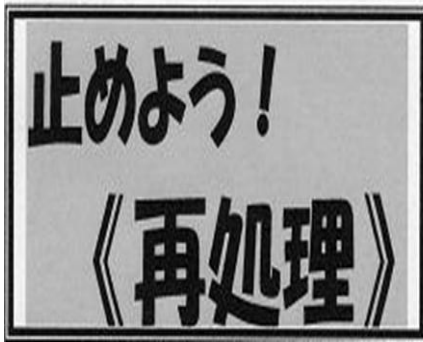


## 三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ《再処理／岩手の環境》  
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm  
《まった再処理分庫》  
http://briefcase.yahoo.co.jp/k\_imag



## 《天恵の海》

2012(平成24)年  
6月20日  
第114号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

# 2012. 5. 5 は日本の安全への折り返し地点 《全原発稼働停止・46日目》 使用済み核燃料 新発生 ゼロ

### 原発は1日でヒロシマ原爆3発分の核分裂生成物を生み出す

- ◇広島原爆で燃えたウランの重量は800グラム。(生成した核分裂生成物の重量)
- ◇100万\*ワットの原発1基が1年運転すると燃やすウランの重量は約1トン。(生成する核分裂生成物の重量)  
(6月2日 小出裕章氏講演会・盛岡から)

### プールは使用済み核燃料で 満杯へ

◇水に入れて冷やし続けなければ崩壊熱で溶け出す、危険な使用済み核燃料が40年間も原発で生み出されつづけて来ました。その総量は全国で約1万5千トン。地震国日本では危険。だから全原発停止は安全への第一歩です。

会の冒頭、小出裕章さんにもご挨拶をいただきました。問題提起では、永田文夫さんから、マスコミに載らないリニア・ユライダー(ILC)計画での放射性物質持ち込みの可能性について問題点の報告がありました。その後の参加者の自

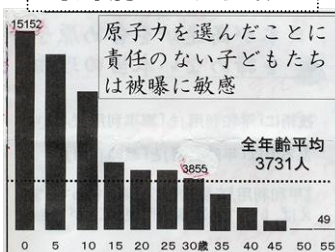


六月二日、小出裕章氏の講演会終了後、会場の岩手教育会館会議室で、放射能問題市民交流会が開催されました。参加したのは岩手県内を中心に、横手や名古屋からも含め三〇余グループと個人で約六〇人。若いお母さんやお父さんも多く自己紹介を兼ねながら、子どもへの心配や現在取り組んでいる運動を語り合いました。

## 放射能問題市民交流会開催 拳の未来と子ども達を守ろう

己紹介と報告では被災地沿岸の厳しい状況、汚染瓦礫問題、県南に分散して発見されているホットスポットの実態解明の問題、被ばくの懸念への悩みを乗り越える活動などが報告されました。また子育て中の若い方々からは、子供の内部被ばくの検診や、学校給食の放射線測定要求、親たちの学習運動などが語られました。会場は満員で、関心の高さが浮き彫りになりました。今回の交流会を出発点として、交流を継続して行くことを確認しました。

### 年齢別ガン死者数



子どもは大人の四倍危険「1万人1シーベルト」の放射能の影響による

◇小出裕章講演会資料

放射能問題市民交流会呼びかけ人  
永田文夫 森 純子  
阿部紀子、菅原佐喜雄  
島津勢津子

たように、実行委員会を継続し、次回へつなげて行くことに決まりました。次期開催は、今回の参加者以外にも、放射能問題や食の安全に関心を持つ個人やグループにも働きかけ、特に農業者の方々にも声がけを行い、来年二月開催として、それに向けて実行委員会は、一〇月を目途に、活動強化ということになりました。「自立した市民の広場」として、内容のある楽しいものにしていきたいと思えます。

# 「原発が許されない理由」 小出裕章氏講演会

主催 県反核医師歯科医師の会  
非核の政府を求める市民の会

報告と感想 大信田尚一郎



小出裕章氏

岩手教育会館大ホール  
いっぱい約七五〇人の聴  
衆の前に、小出裕章氏は、  
「石油があつた三〇年で枯  
渇する、だから原子力」  
という時代の風潮に乗っ  
て、原子力工学に夢を抱  
き学んだ自らの半生から  
語り出しました。そして、  
それは、実に大きな間違  
いであったことに気がつ  
いたいきさつからお話し  
が始まりました。

## 「石油危機論」に振りま された日本

石油は一九三〇年代  
には「あと二〇年」と語  
られ、一九六〇年代には  
「あと三〇年」となり、  
一九九〇年代には「あと  
四五年」と言われまし

た。日本人は「石油・エ  
ネルギー危機論」に振り  
回され、国家の大切な進  
路を科学的根拠も点検  
せず誤って選択して来  
た歴史があります。

戦争直後のマスコミ  
は「原子力発電は、途方  
もなく安く、都会のビル  
ディングの地下室のコ  
ンパクトなスペースで、  
容易に、ものすごく多量  
の電力を得られる」と書  
きました。しかし今は、  
知つてのとおり、巨大で  
危険な原発が地方に押  
しつけられ、大事故を起  
こしました。

## 地震列島に原発は危険

地震のエネルギーは  
巨大で、ヒロシマ原爆の  
エネルギーと比較する  
と、阪神淡路大震災は約  
八二発分、関東大震災は  
約九〇〇発分、今回の東  
日本大震災では太平洋  
の底の地殻で約三万発  
分が爆発した計算にな

ります。ヨーロッパやア  
メリカとは違って、日本  
列島は地震の巣です。そ  
こに原発を五〇余基も  
建てたのです。  
汚染されてしまった世界  
の中で

残念ながら福島原発  
事故が起こってしまった  
ました。大気中だけでも  
ヒロシマ原爆約一八〇  
発分の放射性物質が放  
出されました。日本政府  
報告書の数字です。実際  
はもっともつと多いの  
です。日本の広範な地域  
が「放射線管理区域」と  
同じくらい汚染の状  
態になりました。

## 大人としての責任

こうした事態を許し  
てしまった大人として、  
私達はどうか生きるの  
か？

「トイレなきマンション  
」と言われる原発を動  
かすことによつて、百万  
キロワット級の原発で毎  
日ヒロシマ原爆約三発  
分の核分裂生成物を生  
み出します。なんと日本  
の原発はこれまでに総  
計で、ヒロシマ原爆の約  
一一〇万発分の核分裂  
生成物を生み出しまし  
た。この何十年かで減衰  
した分もあるもので約八

〇〇九〇万発分です。こ  
の核生成物の無毒化は  
出来ません。一〇〇万年  
に亘つて生命環境から  
隔離し続けるしかあり  
ません。

## 誰も責任を取らない「原 子力村」

福島の事故は深刻で  
す。東電はもちろん、原  
子力委員会、原子力安全  
委員会、文部科学省、経  
産省など原子力を推進  
してきた「原子力ムラ」  
の人びとは原子力に巨  
費を投じ、償い切れない  
損害を与えました。

この犯罪者達に責任を  
取らせることは私達の  
歴史的使命です。それを  
果たせなければ、私達も  
自分自身を許せなくな  
ってしまふからです。

## 福島原発事故で示され た崩壊熱のものすけい

小出さんのお話で特に  
印象に残つたのは原発事  
故で起こったメルトダウ  
ンのすごさである。小出  
さんは「炉心の核燃料は  
陶器のように固めてあり  
重さ約百トン。その燃料  
棒が二八〇〇度以上にも  
なつて溶け落ちたのです。  
想像出来ませんか。ものす  
ごいことです」と強調さ

れた。福島原発事故で日  
本人や世界の人びとが見  
せつけられたのは、事故  
を起こした原発の核燃料  
崩壊熱の人知を超えたそ  
ら恐ろしいほどの巨大さ  
である。

福島第一原発のメルト  
ダウンした炉底の正確な  
様子は誰も分らない。  
「溶融核燃料を地下水と  
接触させないよう、巨大  
なコンクリート遮断壁を  
造れ」と小出さんは提言  
しているが、さつぱり聞  
き入れられないと聞く。  
一番の危機を回避するこ  
とこそ、まず第一である。

本年五月五日を期して  
日本中の原発が止まった。  
使用済み核燃料の新たな  
発生が止まったのだ。  
これは日本が核事故の  
危険から安全へ、折り返  
し地点を回つたことを意  
味する。

誰も福島事故の責任を  
取らないまま、総理大臣  
が「私の責任で大飯原発  
を再稼働する」などと語  
り、再稼働が担当閣僚の  
会議で決まったようだ。  
しかし「原発安全神話」  
から抜け出せない発想は  
「終戦」時の軍部と同じ  
だ。無謀な『本土決戦』  
に対して、国民は和平を  
選んだ。無責任な判断は  
歴史の審判を受ける。

## 問われる責任

未来の子どもたちから問われる。  
その時お前はどのように生きていた  
のか……。

戦争の時も大人は問われた。

福島原発事故を起こしてしまった今  
もそうだろう。